

## 鹿島錦の歴史

鹿島錦は今からおよそ二百年前、鹿島鍋島藩主直義公夫人篤子様（柏岡様）が病の床に臥したとき、ふと見上げた天井の網代模様の面白さに心惹かれ、これで何か日用品を作れないかと側近のものに相談されたので、近習の並木某が苦心研究の末、観世綾で網代形を編み、印籠等を作ったところなかなかに雅趣があるものになつたのが始まりと云われています。

その後、歴代の夫人によつて工夫が加えられ、殿中の人々によつて後世に伝承されました。中でも第十三代藩主直樹公夫人謙子様は、熱心に工夫改良に努力され、その伝統は第十四代当主直繩公夫人政子様に受け継がれ、今日に至っています。

明治中頃まで、佐賀地方で織られる錦は、組み錦や鹿島錦と呼ばれていました。明治四十年（1910年）ロンドンで日英大博覧会が開かれ、鹿島錦が出品されることになり、大隈重信候の計らいで、知名度を考慮して「佐賀錦」の名で出品されました。それ以来、佐賀錦の名称も一般的に使われるようになりました。

昭和四十三年（1968年）、鹿島市では、伝統的技術の継承と鹿島錦の発展を目的として鹿島錦保存会が結成され、鹿島錦教室が開講しました。以後、保存会員の努力により今まで受け継がれ、現在の発展を見るに至っています。

# 鹿島錦

日本手工艺の極致

伝統美

艶やかな美の世界 鹿島錦



几帳（一対）祐徳稻荷神社所蔵

### 鹿島錦教室のご案内

- 日時 毎週木曜日 第2・第4火曜日
- 場所 鹿島市生涯学習センター・エイブル

### お問い合わせ

#### ●鹿島錦保存会

鹿島市古枝乙1686 祐徳博物館内 TEL 0954-62-2151

#### ●鹿島市役所産業部 商工観光課

鹿島市大字納富分2643-1 TEL 0954-63-3412



鹿島錦紗綾形文宮迫(鹿島市重要文化財)

経糸に上質の和紙、緯糸に本絹糸を使用して織り上げられた鹿島錦。

経糸は必要寸法に裁断され、金、銀、漆、柄箔にして、

これを一定の規格に裁断したもの。

緯糸は絹糸を三本諸撚りにして染色したもので、共に特別に注文した材料を使い、

伝統の網代模様を中心に多種多様な紋様を使用して、

## 伝統の心と技が生きる

平織り、綾織り、模様織りで織り上げています。

根気と努力、そして継続を必要とし、特に精緻な技術を要するため、

織り上がり、作品になるまでには長時間を要します。 級爛豪華な大作から上品な小物類まで、その美しさは、実用品のみならず、

美術品としても他に類を見ない価値あるものと称賛されています。

# 伝統力が織りなす美の結晶



面袋/三つ折りかかえバッグ



浮足コイン入れ/眼鏡入れ/名刺入れ/造花



印鑑入れ



帯締め



札入れ



お茶道具/懐紙入れ



手提げバッグ



ぞうり/バッグ/懐紙入れ



尺八袋